16 - 1

## 〔新素材を活用した環境や人にやさしい野菜生産技術の開発〕 イージーネットハウスによる冬まき葉根菜類の作型評価

小寺孝治・澁澤英城・沼尻勝人 (園芸部)

## 【目的】

昨年,イージーネットハウス(以下,ネットハウスとする)は高温期に難しいとされる アブラナ科野菜の無・減農薬栽培の可能性を大幅に向上させる低コストな施設であること を報告した。しかし,施設の有効利用を図るためには,低温期での作型開発が重要である。 そこで,冬季対応としてネットハウスの上からクリーンテートフィルムを被覆し,種々の ネットハウス下における冬まきコマツナ,ホウレンソウ,コカブの生育について検討する。

## 【試験方法】

[供試ハウスの概要]マルクイージーハウスの骨材の上にネットを全面被覆し、その上から従来のフィルムを展張した。ネットは 2001 年 6 月から展張しており、フィルムは播種後から被覆した。播種は 2002 年 1 月 30 日に、コマツナ '彩夏'、ホウレンソウ 'アクセス2号'、コカブ 'CR 里丸'を透明マルチ (No.9415) の規格で、マルチ区と無マルチ区を設け、菜類は 1 穴 5 粒、コカブは 1 粒ずつ行った。供試ハウスはベルネットほか 4 種のネットを展張したハウスとネット無し区を設けた。栽培では農薬を使用せず、生育調査はコマツナが 3 月 18 日 8 日

## 【成果の概要】

- 1) コマツナ・ホウレンソウ:全般にマルチ区は無マルチ区に比べて収量や草丈は高かったが、上物率には各処理間に大差はみられなかった。各ネットの比較において、マルチ区の場合、収量はネット無し区が最も高く、ベルネット区が最も劣ったが、草丈や葉色には大差がみられなかった。無マルチ区では、収量や草丈の処理間差は小さかったが、葉色の差異が大きく、特にコマツナではベルネット区と F-1500 区で低くなった (図 1, 図 2)。
- 2) コカブ:地上部の発育はF-1500 区と N-2220 区でやや低くなったが、その他の区はほぼ同等であった。しかし、ネット被覆区はいずれも地下部の発育が低下し、ネット無し区に比べて T/R 比は高く、その傾向は特にマルチ区で顕著であった(図3)。なお、ネット区はナモグリバエの被害が殆どみられなかったが、ネット無し区ではやや多く観察された。
- 3)以上の結果、冬季対応型ネットハウス下での冬まき葉根菜栽培において、マルチを行うと、地上部の生育は促進されるが、ネットによる遮光の影響を伴うことから収量や地下部の発育がやや低下する傾向がみられる。無マルチ栽培の場合には、生長が遅れるために葉菜類では収量や草丈に大差がない結果を得た。一連の結果は主に地温、気温、日射量との関係での裏付けが必要であるが、いずれのネット区においても外観的品質には問題はみられず、冬季には農薬を使用せずに葉根菜類を栽培することが可能と考えられる。

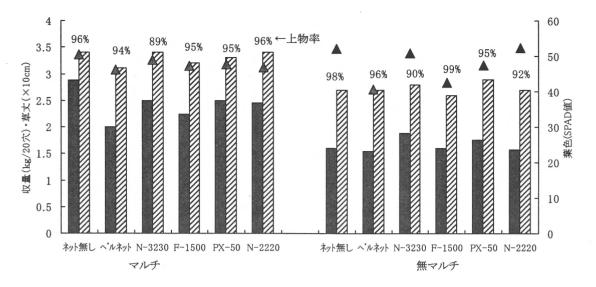


図1 各ネットハウス下における冬まきコマツナの生育 ■収量 ②草丈 ▲葉色

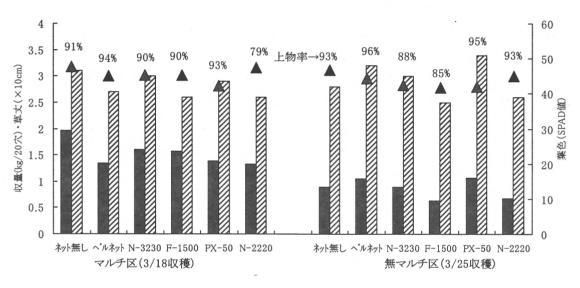


図2 各ネットハウス下における冬まきホウレンソウの生育 ■収量 □草丈 ▲葉色

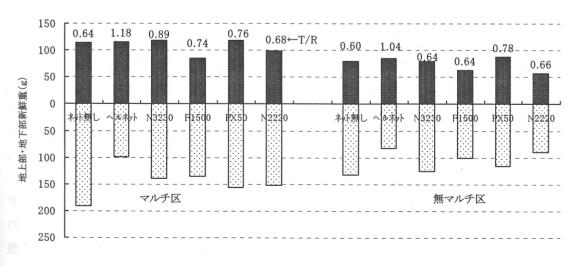


図3 各ネットハウス下における冬まきコカブの生育

□根重 ■葉重